

## 《巻頭言》

### はじめに

理事・副学長（研究・地域連携担当）

小 沢 喜 仁

福島大学が行う、研究、教育、そして社会貢献につきましては、日頃より多大なご協力とご支援をいただきありがとうございます。改めてお礼申し上げます。

福島大学は、地域にある国立大学としてその使命を果たすべく、地域課題や社会問題の解決に積極的に取り組み、地域の学術研究拠点をめざすとして、研究推進の基盤となる「福島大学研究ポリシー」を制定いたしました。

研究は、大学が行うすべての活動、取り組みの根源をなすものであり、研究者は研究の自由を有していると考えております。自律性と自発性に基づく研究活動を尊重し、世界の平和、人類の進歩及び地球環境の保全に貢献する視野と意識を持って研究を推進することとし、「研究ポリシー」にも記載しています。

研究の推進を考えるにあたり、社会との対話と教育への還元への重要性が大きくクローズアップされました。大学が教育機関であることを改めて認識して、研究活動の内容を社会に対して積極的に発信するとともに、研究成果が持つ影響を意識し、社会の発展に貢献すること、また、地域と共に歩む人材育成大学として、地域に密着した研究活動と最新の研究成果を教育に活かし、時代と社会の要請に応えることを強調しています。研究活動は、研究者である教員ばかりでなく、学生、高等教育機関や公設研究機関の研究者、企業技術者と経営者、自治体職員、そして地域の方々など、多くの方々の参画により研究組織が構成され、実施されています。研究活動自体が、教育や社会貢献の機能を持ち、実施されていることを改めて意識いたしました。

そのためには、研究組織の構成員は、人間の尊厳、健康及び生命の安全を保護し、基本的人権や新しい人権を擁護して研究を行うため、各種の倫理規範や関連法令等を遵守することはもちろん、研究活動を促進するため、組織として研究環境を整備するとともに、研究支援体制を強化することも求められています。

この研究年報は、学長裁量経費による特徴ある研究事業推進「福島大学重点分野 foR プロジェクト」や学内奨励的学術研究助成経費による研究など、平成 28 年度に行った研究活動の概要と成果をまとめたものであります。福島大学は、今後も、自らの使命として、地域課題や社会問題の解決に積極的に取り組み、地域の学術研究拠点をめざします。研究者が自らの意思によって行う多様な研究形態に意義を認め、それぞれの特性に応じた戦略的な展開を図ります。研究活動について貴重なご意見やアドバイスを賜りますとともに、皆さまのご協力、ご支援を改めてお願い申し上げます。